

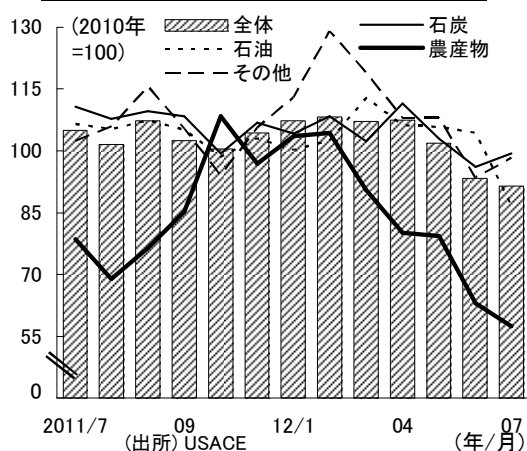


旱魃で米国の内航貨物輸送減

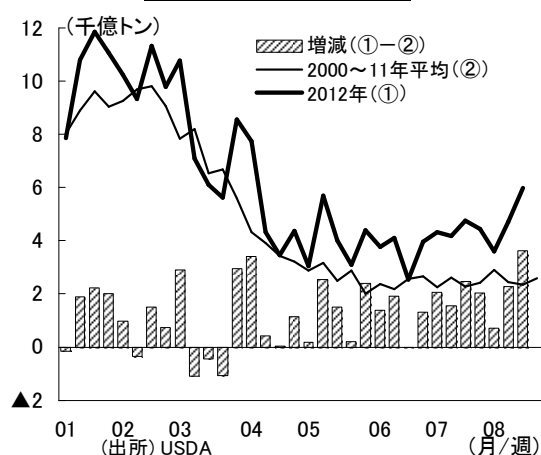
～ 河川流水量が減少 ～

- (1) アメリカで水運は陸運、空運と並ぶ物流3本柱の一つ。とりわけ農産物は嵩張るうえ、生産地が中西部やハイプレーンズなど内陸に位置するため、河川輸送が重要。しかし、本年5月以降、内航貨物輸送量が月を追って減少（図表1）。品目別にみると、農産物の減少が際立つものの、総じて本年7月の輸送量は本年初比▲2割減。
- (2) 主因は河川の流水量減少。同国内航輸送の中心であるミシシッピ川について河口近くのルイジアナ州バトンルーージュと下流域のミシシッピ州ビックスバーグをみると、いずれも本年3月以降、流水量が減って水深が減少（図表2）。年末から5月まで流水量が増えて水深が深くなった後、6月から9月まで流水量が減って水深が浅くなるという例年のパターンから乖離。本年は、年初の暖冬で降雪量が少なく春以降の融水量が例年比少なかったたうえ、6月以降、旱魃。熱波による蒸発が水量減を加速。
- (3) 8月半ば以降の水深は、バトンルーージュ4フィート前後、ビックスバーグ1フィート足らずなど、総じて航行に支障を来す異常事態。例年通り、9月から11月までの流水量に大きな変化がなく、12月から次第に水量が増えて水深が深くなるという推移を前提にすれば、少なくとも今後、年末までの数ヵ月間、同国内航輸送の本格回復は見込み薄。
- (4) 一方、需要増の動きも。典型が大豆。米農務省調査によると、大豆の輸出成約が例年を大きく上回って増加（図表3）。受粉期が終了して供給懸念が拡大するなか、7月入り後、大豆確保に向けた動きが拡大。もっとも米国では大豆生産地からの主要輸送手段は内航。内航制約が長引く場合、需給逼迫に拍車が掛かり、価格上昇圧力が増幅される展開が視野。

（図表1）アメリカ内航貨物輸送量（季調済）

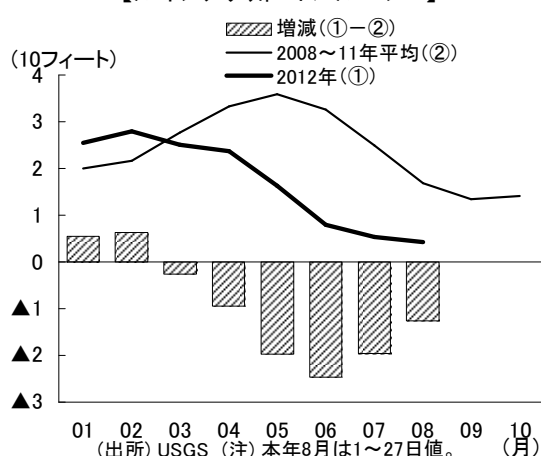


（図表3）大豆輸出成約量



（図表2）ミシシッピ川の水深推移

【ルイジアナ州バトンルーージュ】



【ミシシッピ州ビックスバーグ】

